

みどりの大使 が行く!



...CROWN...
2026

ミス日本みどりの大使

ながた まなみ
永田 愛実

を務めました。林野火災が発生すると、長年かけて育まれた森林環境のみならず、森とともにある地域の営みごと失われます。だからこそ、被災森林をどのように再生し、被災木をどのように活用していくのかを考えることは、森を「元に戻す」だけではなく地域の未来を考えることであり、森林を守るとは地域の暮らしや文化、未来をつないでいくことだと感じました。

moritimiraiのファシリテーター

山梨県にて、山梨日日新聞社が開発したオリジナルカードゲーム「moritimirai」の体験会が開催され、ファシリテーターを務めました。「moritimirai」は参加者が、異なる仕事や目的を持つ10種のプレイヤー（森林の所有者、森林組合、猟師、行政、住宅メーカーなど）になり、各立場で仕事や生活に関わるアクションを行って、「森の未来」を作るゲームです。ポイントは、「何が大切なのか」が異なることです。森林環境の保全、木材利用、地域産業の維持など、全てを同時に実現するのは簡単ではありません。だからこそ、対話により互いの考えを知りつつ森の未来を考えることに大きな意味があります。

防災士の資格取得

林野火災・被災木利用セミナー

岩手県主催の昨年大船渡市で発生した林野火災跡地の森林再生と、被災木の利用について考えるセミナーで司会



参加者は、森について「一緒に考え」「共感を得る」ことの大切さまで教えてくれるゲームを夢中で楽しんでいました。森林や林業に関心を持つ人が増え、それぞれの立場から森を考えることが大切だと感じました。

愛実のつなぐ・届ける・森の声

「森には、まだ知らない価値がある」

これは第20回森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会にて、森林を活用した地域づくりを発表された南都留森林組合の参事、竹田仙比古さんの言葉です。

同森林組合では、林内にマウンテンバイクコースを設置し、新たな産業として展開しています。木材の生産とともに人が森を訪れて楽しむ新たな価値を生み出し、地域全体の活性化にもつながっています。お話を伺う中で、森の価値を未来へつなぐのは、森林に直接関わる人だけでなく、森を訪れ、森を知り、森を好きになる一人ひとりかもしれないと感じました。

今月、様々な活動を通し、私の中で「森を守る」ことの意味が、少し変わってきたように感じます。木々を守るだけでなく、人の命や暮らしを守り、地域の文化や産業をつなぎ、森の新しい価値を生み出していくことでもあると思います。今後も、一人でも多くの方に森に関心を持ってもらい、その人なりの形で森と関わるきっかけを作っていきたいと思っています。

